



Title	<図書紹介>Arthur J. Pulos, American Design Ethic - A History of Industrial Design to 1940 -, The MIT (Massachusetts Institute of Technology) Press; 1983. 441P.
Author(s)	吉村, 典子
Citation	デザイン理論. 1994, 33, p. 112-113
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/53038">https://doi.org/10.18910/53038</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

*Arthur J. Pulos, American Design Ethic — A History of Industrial Design to 1940—,*

*The MIT (Massachusetts Institute of Technology) Press, 1983. 441P.*

吉村典子／京都工芸繊維大学大学院博士後期課程学生

機械テクノロジー、電子テクノロジーと20世紀アメリカは、近代から現代のデザイン史に中心的テーマを提供してきた。アメリカ・デザイン史研究の第一人者であるアーサー・J. プーロス氏は、1970年代までのアメリカ・デザインの歴史をこれまで2冊の本に著している。そのうち一冊は、既に『現代アメリカ・デザイン史——スプーンからジェット機まで1940—1970——』として邦訳出版されている（永田喬訳，岩崎美術社，1991年）。本図書紹介では、もう一冊の1940年までの歴史をまとめた *American Design Ethic* を取り上げてみたい。

この本は、サブ・タイトルに「1940年までのインダストリアル・デザインの歴史」とあるように、マシン・エイジの全盛とインダストリアル・デザインが確立していく頃までのアメリカのデザインの歴史が細かく記されている。そして、こうした歴史を綴る中で、各々の時代の、様々な目的や要求に応じたデザインが生み出されていくまでの方向性を明らかにすることにより、本書のタイトルにある「アメリカのデザイン精神」を浮かび上がらせていこうとするものである。本書は、前掲の『現代アメリカ・デザイン史』と併せて、アメリカ・デザインの歴史を知る上で基本的参考図書となるものと言える。そして、特に本書に関して興味深い点は、17世紀の植民地形成時代からの歴史が克明に記されている点であり、次に示した目次からもわかるように、20世紀以前の歴史に大半の章をついやしている点である；

1. The Colonies (植 民 地 時 代)

2. The Young Republic (新 興 共 和 国)  
 3. The Democracy (民 主 社 会)  
 4. The Aristocracy (貴 族 社 会)  
 5. The New Century (新 世 紀)  
 6. The Machine Age (機 械 時 代)  
 7. The Design Decade (デザインの時 代)

インダストリアル・デザインの、特にアメリカの、たとえば、世界の中心がヨーロッパからアメリカに移ったと言われる20世紀に焦点が当てられがちであるが、本書は、それに至る、時代的にはいわばヨーロッパ主導の時期が主となっている。この時代は一見して、ヨーロッパの派生、分派でしかないかたちやスタイルが多く観察できるのであるが、それがつくられるデザインの方向性は、典型的な「アメリカのかたち」が登場してくる20世紀のデザイン活動と重なり合っている。つまり、ここにアメリカのデザイン精神の原点を見ることもできるのである。アメリカの造形精神に対して、ピューリタンの規範や、開拓精神はよく取り上げられる点であるが、それ以外にアメリカの民主的精神は、造形デザインに大きく関わるものであり、本書全体を通しての一つのキー・ワードとなっている。そしてその精神が如実に現れているのが、20世紀に至るまでの時期と言えるであろう。そうしたアメリカ・デザインの出発点を本書から読み取ることができる。以下、簡単に内容を紹介することにしたい。

まず第1章 (The Colonies) では、17世紀を中心とした植民地形成時代のピューリタンの社会規範とともに、環境や生活を改善していく中で培われていくアメリカの造形精神

を示している。第2章 (The Young Republic) は、独立戦争から連合の時代、そして合衆国が成立していく中で、アイデンティティーを求めたものづくりの動きが示されている。第3章 (The Democracy) は、アメリカの造形精神の本質の一つである民主精神が取り上げられている。アメリカの自由・平等主義とその精神に基づき、19世紀を中心とする産業革命も、民主的な生活様式の完成に必要なものとして受け入れられている。第4章 (The Aristocracy) は、産業がつくりだすものと美的価値の問題である。それに対する様々な解釈と方向性が取り上げられている。これは、産業が進展するに従って各国が抱えた問題であるが、アメリカの一つの改善策が次章へとつながっている。第5章 (The Machine Age) は、機械時代の到来と前章の問題からインダストリアル・デザインが確立していく様子が記されている。そして最後の第6章 (The Design Decade) では、デザインの繁栄の時代についてであり、流線型、摩天楼等の象徴的な「アメリカのかたち」が登場する。

以上のような流れで、本書は住居や工場、オフィス、農場、道路等の幅広い分野におけ

る様々なもののデザインを取り上げながら、1940年までのアメリカのデザインとその歴史を網羅している。そして、各章のはじまりには、その時代を象徴するような様々な人物の言葉や文章を引用するというスタイルが取られており、各々の時代精神を生き生きと伝えている。さらに、300枚を超える写真や銅版画、広告、ドローイング等も加えられ、全体的に充実した図書となっている。本書はこれまでのアメリカのデザインを把握する上で絶好の資料となるとともに、これからのデザインに対しても、多くのことを示唆するものと思われる。

最後に著者について簡単に紹介しておく。アーサー・プーロス氏は、デザイナーとして活躍し、プーロス・デザイン・アソシエーツを設立している。またニューヨーク州のシラキューズ大学でデザイン史研究に従事し、デザイン学部の学部長も務めた。その他にもアメリカのインダストリアル・デザイン協会の会長も務めている。現在、彼は大学を退官し、インダストリアル・デザインに関する展覧会の監修等を行っている。彼は、数回来日し、日本通としても知られており、地元で陶磁器展の企画もしたということである。